

本日は我が国の天皇誕生日レセプションによろそお越しくございました。

私は昨年2月に大使として当地に赴任して1年が過ぎました。赴任した頃は、COVID-19のせいであらゆる活動を縮小せざるを得ない状況でしたが、今日、私たちはかつてのように一緒に集まることができました。大変喜ばしく思います。

日セネガル関係については、昨年8月、日本はAU議長国であったセネガルとともに、日とアフリカとの関係において重要な国際会議であるTICAD8を成功裏に開催することができました。この会議において日本はアフリカと「共に成長するパートナー」として、「人」に注目した日本らしいアプローチのもと、「人への投資」、「成長の質」を重視し、今後3年間で官民総額300億ドル規模の資金投入することを表明しました。

そして12月にはサル大統領が訪日するという重要イベントで1年を終えることができました。

サル大統領は天皇陛下に謁見し、岸田総理と首脳会談を行い、日本政界や経済界の代表者に会いました。首脳会談では経済協力やビジネス関係の強化、人的交流の促進が話され、国際問題について意見交換を行いました。両国の首脳が胸襟を開いて時間をかけて二国間関係や国際情勢についてしっかりと意見交換を行ったことは、両国間の相互理解と協力を深める上で大変意義あることでした。

今日セネガルは大きく発展しつつあります。本使としてはセネガルとの関係をODAの協力を留まらず、ビジネスや人的交流等の幅広い分野で包括的に進めたいと考えています。首脳会談の際に発表された日セネガル共同声明において、二国間関係を包括的に進めていくという方向性が示されました。私達の間関係を更に高めていくための良い基盤ができたと考えています。

経済協力では、日本の円借款でマメル海水淡水化計画が進行中です。昨年5月には、サル大統領臨席のもと海水淡水化施設の起工式を行いました。また先日、本使はサンルイ州を訪れ、JICA主導で実施されているセネガル川流域における灌漑稲作の視察に行ってきました。米は日本人の主食であり、日本の稲作の技術を移転することで、コメの生産性や質の向上、セネガルにおけるコメの自給自足の向上を支援

しています。JICAの展示ブースにてプロジェクトの紹介を行っているのでぜひご覧ください。

ビジネス・科学技術分野でも新たな取り組みが生まれています。

カゴメという日本の会社がセネガル北部でトマトの栽培に取り組んでおり、本年も沢山の高品質のトマトを収穫できました。本日は同社の収穫したトマトの試食ブースもご用意しておりますので是非味を確かめてみてください。また、自動車や建機の分野において当地で活動している日本企業を展示ブースにて紹介しています。

更に、最近多くの日本のスタートアップがセネガルに進出し、その活動を広げています。ドローン等の先端技術を活用した医療・衛生分野での事業、ソーラーパネルを用いて非電力化地域に電気を届ける事業、浄水器を用いた地域給水事業等、地域住民レベルのニーズに応えた活動をしています。彼らの展示も是非ご覧ください。

このような経済・ビジネス分野の協力の加え、今年は人的交流や文化交流の強化に努めようと思います。日本は1980年よりセネガルの各地に日本人のボランティアを派遣してきました。多い時には100名近い日本の若者が、セネガルの各地で教育・医療などの分野で人々と暮らし、ともに働いてきました。本日は日本のボランティアの一人である、魚住彰吾さんにお越しいただきました。彼はティエスにおいて、レスリングの指導、普及のために活動しています。彼自身セネガル相撲の選手でもあります。後ほどデモンストレーションをして頂きます。

また、ご存じのとおり日本のマンガやアニメは世界中の若者の間で熱狂的な人気を誇っています。これはセネガルでも例外ではありません。マンガやアニメ等のポップカルチャー分野の交流も強化していきます。先日、初めの試みとしてマンガワークショップを開催しました。子供や若者が熱心にマンガを書いている光景はほほえましいものでした。マンガやアニメ、伝統芸能、更には柔道や空手と言ったスポーツを通じて、セネガルの方々に日本をより身近に感じていただけるよう努力していきます。

国際関係について言えば、今年、我が国は国連安保理の理事国を務めており、また、G7議長国を務めています。

国際社会では昨年始まったロシアによるウクライナ侵攻は未だに続いています。力による国際秩序の一方的変更を許してしまえば、国際社会は混乱に陥るでしょう。

セネガルを取り巻く西アフリカ地域でも、イスラム原理者との紛争が続いており、地域が不安定化する危険性があります。

アジアでは、北朝鮮による弾道ミサイルの発射実験が繰り返されており、我が国の周辺でも緊張が高まっています。

また、こうした安全保障の問題のみならず、COVID19といったパンデミックや気候変動問題、食糧危機等、国際社会は多くの深刻な問題を抱えています。こうした諸問題に対処するにあたり、今日ほど国際社会の協力が重要になっている時はありません。

我が国はG7議長国として、また安保理のメンバーとしてこうした国際協力を推進していく決意ですが、こうした我が国の努力において、自由と民主主義といった基本的価値を共有し、かつ力強く発展しているセネガルは国際社会における日本の重要なパートナーであります。日本はあらゆる機会をとらえて、両国の友好と協力の絆をより強固なものにしていく考えです。私はあらゆる関係において、両国が「共に歩む」ことをモットーとしています。日セネガル関係の一層の発展のためにセネガルの皆さんと共に歩みたいと思います。

「セネガル、日本、ともに歩もう」！！

ご清聴ありがとうございました。